



2019年3月期 第2四半期 決算説明会

ケンコーマヨネーズ株式会社

2018年11月20日



- ①. 2019年3月期 第2四半期 総括
- ②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況
- ③. 2019年3月期 業績予想

①2019年3月期 第2四半期 総括

代表取締役社長 炭井 孝志

決算発表のポイント

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



■2019年3月期 第2四半期 決算(連結)

- ▶ 売上高では、調味料・加工食品事業のサラダ・総菜類が減収
一方総菜関連事業等は、新工場の稼働により増収
- ▶ 経常利益では、新工場の立ち上げから軌道に乗せるまでの
新工場関連費用が増加し、減益

売上高 374億 9百万円
(前年同期比 +1.0%)

経常利益 15億12百万円
(前年同期比 △30.8%)

■2019年3月期 通期業績予想の修正(連結)

- ▶ 第2四半期までの進捗等を鑑み、通期業績予想の修正を発表
売上高、利益ともに下方修正

売上高 745億円
(前年同期比 +2.4%)

経常利益 30億円
(前年同期比 △27.7%)

グループ生産拠点構想について

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



■外部環境

中 食

- ・量販店における日配のフレッシュ総菜
- ・コンビニエンスストア等における弁当・惣菜等

外 食

- ・人手不足による調理の簡便化ニーズに対応したロングライフサラダ・冷凍品等

需要増加

生産体制の強化、生産能力の平準化 需要に応える安定供給

■グループ生産拠点構想

	工場／連結子会社	主な生産品目(予定を含む)	稼働開始(予定) 年月日	完成後の増加能力 (見込)
新工場建設	(株)ダイエツクック白老	日配のフレッシュ総菜・和惣菜(北海道地区向け)、 冷凍品(素材系ポテトなど)	2018年4月 稼働開始	サラダ・総菜類 年間約3,000t増
	(株)関東ダイエツクック 神奈川工場	日配のフレッシュ総菜・和惣菜 (関東地区向け)	2018年6月 稼働開始	サラダ・総菜類 年間売上高約60億円
増設	静岡富士山工場	卵焼き製品 (厚焼き卵、錦糸卵など)	2019年2月(予定)	タマゴ加工品 年間約3,020t増
	西日本工場	ロングライフサラダ (小型形態のポテトサラダなど)	2019年3月(予定)	サラダ・総菜類 年間約4,300t増

グループ生産拠点構想の進捗について①

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



(株)ダイエットクック白老 (2018年4月 稼働開始)



住所	北海道白老郡白老町字石山68-11
増加能力(見込み)	サラダ・総菜類 年間約3,000t増

◆主な生産品目◆

素材系冷凍ポテト・
チルドポテト



人手不足によるオペレーションの
効率化を図る外食向けに提案強化

日配のフレッシュ総菜・和惣菜
(北海道内の食品スーパー様向け)



中食市場の拡大に伴うニーズを
取り込む

グループ生産拠点構想の進捗について②

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



㈱関東ダイエットクック 神奈川工場（2018年6月 稼働開始）



住所	神奈川県小田原市国府津字北桃重2880-6
増加能力(見込み)	サラダ・総菜類 年間売上高約60億円

◆主な生産品目◆

日配のフレッシュ総菜・和惣菜
(首都圏の食品スーパー様向け)



所沢工場との2拠点化

生産体制の強化

生産能力の平準化

販売拡大



過熱水蒸気オーブンを活用し
肉類、魚類を使用した商品の拡充

グループ生産拠点構想の進捗について③

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



●静岡富士山工場

主な生産予定品目	卵焼き製品 (厚焼き卵、錦糸卵など)
稼働年月	2019年2月(予定)
完成後の 増加能力(見込)	タマゴ加工品 年間約3,020t増

➤ タマゴ加工品の更なる販売拡大



【完成予想図(イメージ)】

西日本工場

主な生産予定品目	ロングライフサラダ (小型形態のポテトサラダなど)
稼働年月	2019年3月(予定)
完成後の 増加能力(見込)	サラダ・総菜類 年間約4,300t増

➤ 外食、中食向けのロングライフサラダの販売拡大



【完成予想図(イメージ)】

2019年度以降、4拠点の着実な稼働により
生産体制の強化・生産能力の平準化を進め
更なる成長・発展を目指す





KENKO Value Action

CSV経営の実践

地域貢献

環境・資源

サプライチェーン

ソリューション

働き方

3つの事業戦略

1. お客様と共にビジネスを創造
2. “創り・応え・広げる” 生産体制
3. サラダ料理を世界へ

“サラダNo.1企業”として成長・発展しつづける

中期経営計画「KENKO Value Action ～価値の創造～」

《CSV経営取り組みの一例》

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



地域貢献

～地域貢献度No.1企業を目指して～



環境・資源

～資源・エネルギー利用の効率化～



サプライチェーン

～サプライチェーンの短縮と
事業活動の改革～



ソリューション

～「技術・サービス」の事業化～



働き方

～従業員満足度の向上～



中期経営計画「KENKO Value Action ～価値の創造～」

《3つの事業戦略》

①. 2019年3月期 第2四半期 総括



1. お客様と共にビジネスを創造



➤ 高付加価値商品の拡充

- ・『和彩万菜®』 → 簡便性、ロス削減
- ・『トリプルバランス®』 → 健康・ヘルシー志向



➤ サラダ料理の体現

- ・少人数制料理教室
「キッチンスペース831」
- ・業務用のお客様向け
ワークショップ



ワークショップの様子

2. “創り・応え・拡げる” 生産体制



➤ 新工場建設

稼働開始

(株)ダイエツクック白老

主な製品: フレッシュ総菜・冷凍品

稼働開始

(株)関東ダイエツクック

主な製品: フレッシュ総菜

➤ 増築

静岡富士山工場

主な製品: 卵焼き製品

西日本工場

主な製品: FDF®

2018年度中
完了予定



3. サラダ料理を世界へ



➤ 輸出販売の拡大

- ・42の国と地域に販路拡大(2018年9月末現在)
- ・グローバル対応商品の拡充
(世界のテイスト、インバウンド、輸出対応等)



➤ 情報発信

- ・海外展示会への積極的な参加
→ 米国・英国などで
計7回(2018年4月～9月実績)



海外展示会の様子

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況

常務執行役員 経営企画室 室長
京極 敦

2019年3月期 第2四半期 食品業界動向

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



外食産業

- 市場は引き続き拡大。特にファストフードやファミリーレストラン業態で売上高の増加が顕著
- 業界全体で深刻な人手不足による対策が急務

スーパー マーケット

- 惣菜売り場は中食市場の伸びとともに堅調に推移
- 北海道、西日本を中心に地震、豪雨等自然災害による影響
- ネット通販等の競争、人手不足への対応が課題

コンビニエンス ストア (CVS)

- お弁当、惣菜、調理パン、サラダ等の中食が堅調に推移
- ドラッグストア等異業種との競争の激化

2019年3月期 第2四半期 決算の概況(連結)

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



新工場立ち上げ時の関連費用増加や原材料価格の高騰、
人件費の上昇等により減益

売上高 374億 9百万円 (前年同期比: +1.0%)

- タマゴ加工品や食品スーパー向け日配サラダが好調に推移
- サラダ・総菜類が減少
- 天候不順や地震等自然災害による影響

経常利益 15億 12百万円 (前年同期比: △30.8%)

- 新工場の立ち上げから軌道に乗せるまでの
新工場関連費用の増加
- 原材料価格の高騰や人件費の上昇

2019年3月期 第2四半期 業績(連結)



②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況

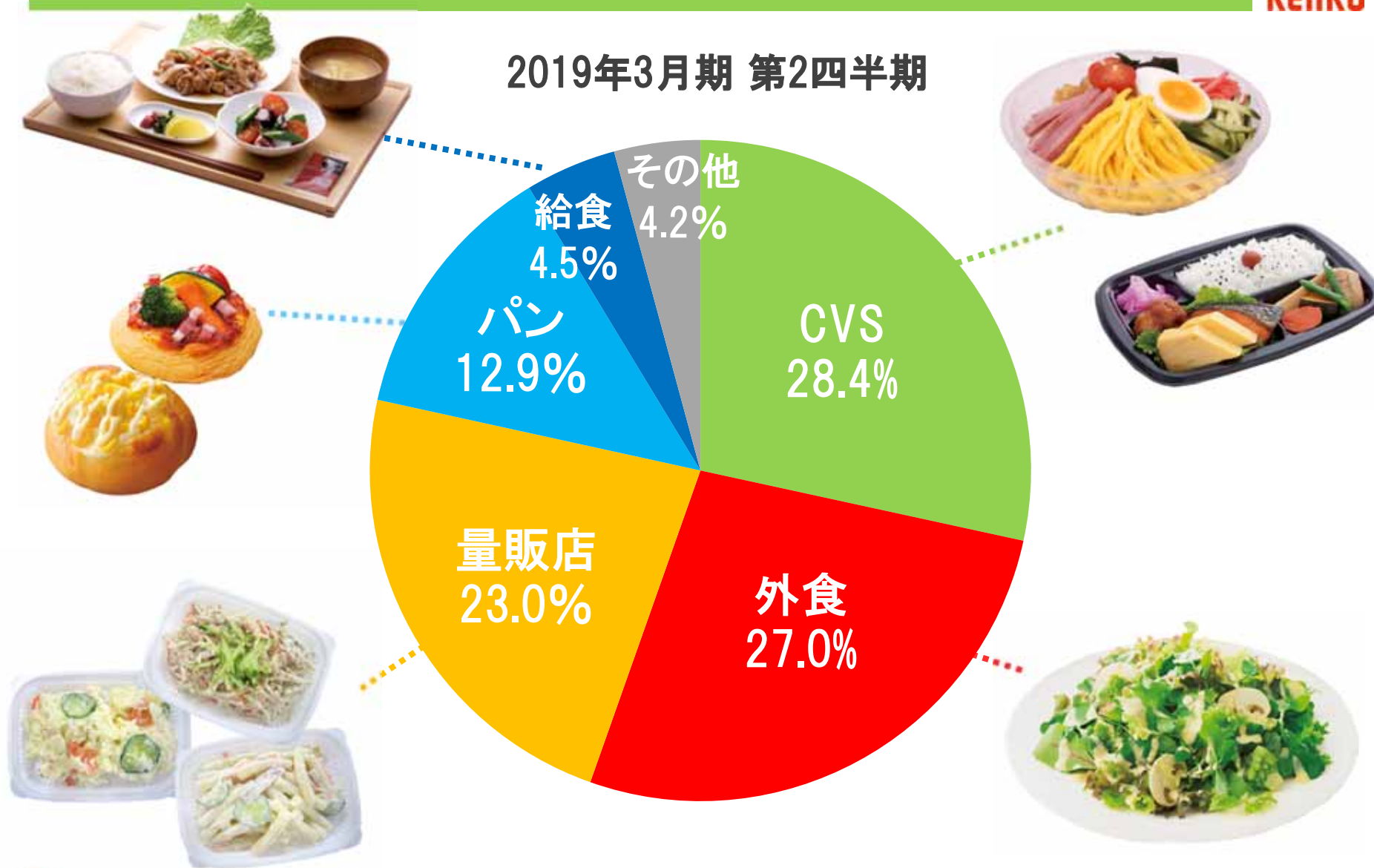
連結損益計算書 概要	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期業績			2019年3月期 第2四半期予想 (2018/5/15発表)
	金額	金額	前期比	予想比	金額
売上高	37,021	37,409	1.0%	△3.1%	38,600
売上総利益	9,576	9,117	△4.8%		-
%	25.9%	24.4%			
販売管理費	7,423	7,660	3.2%		-
営業利益	2,152	1,456	△32.4%	△30.0%	2,080
%	5.8%	3.9%			5.4%
経常利益	2,184	1,512	△30.8%	△28.0%	2,100
%	5.9%	4.0%			5.4%
税金等調整前四半期純利益	2,185	1,551	△29.0%		-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,489	903	△39.4%	△35.5%	1,400
%	4.0%	2.4%			3.6%
1株当たり四半期純利益	90円43銭	54円84銭			84円97銭

分野別売上高構成比(連結)

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



2019年3月期 第2四半期

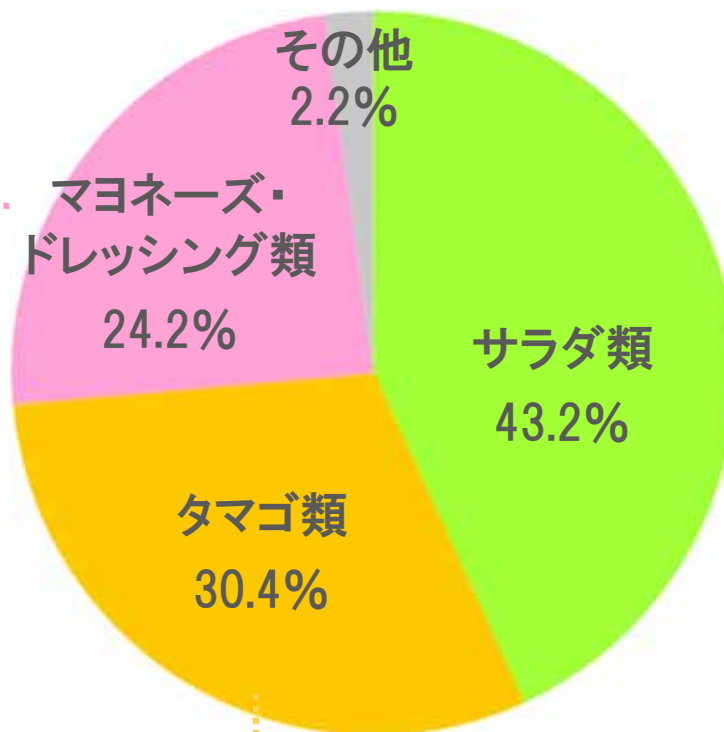
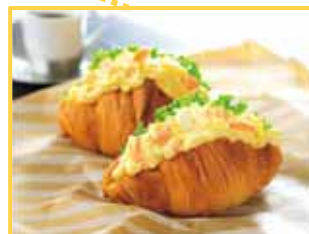


商材別売上高構成比(連結)

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



2019年3月期 第2四半期



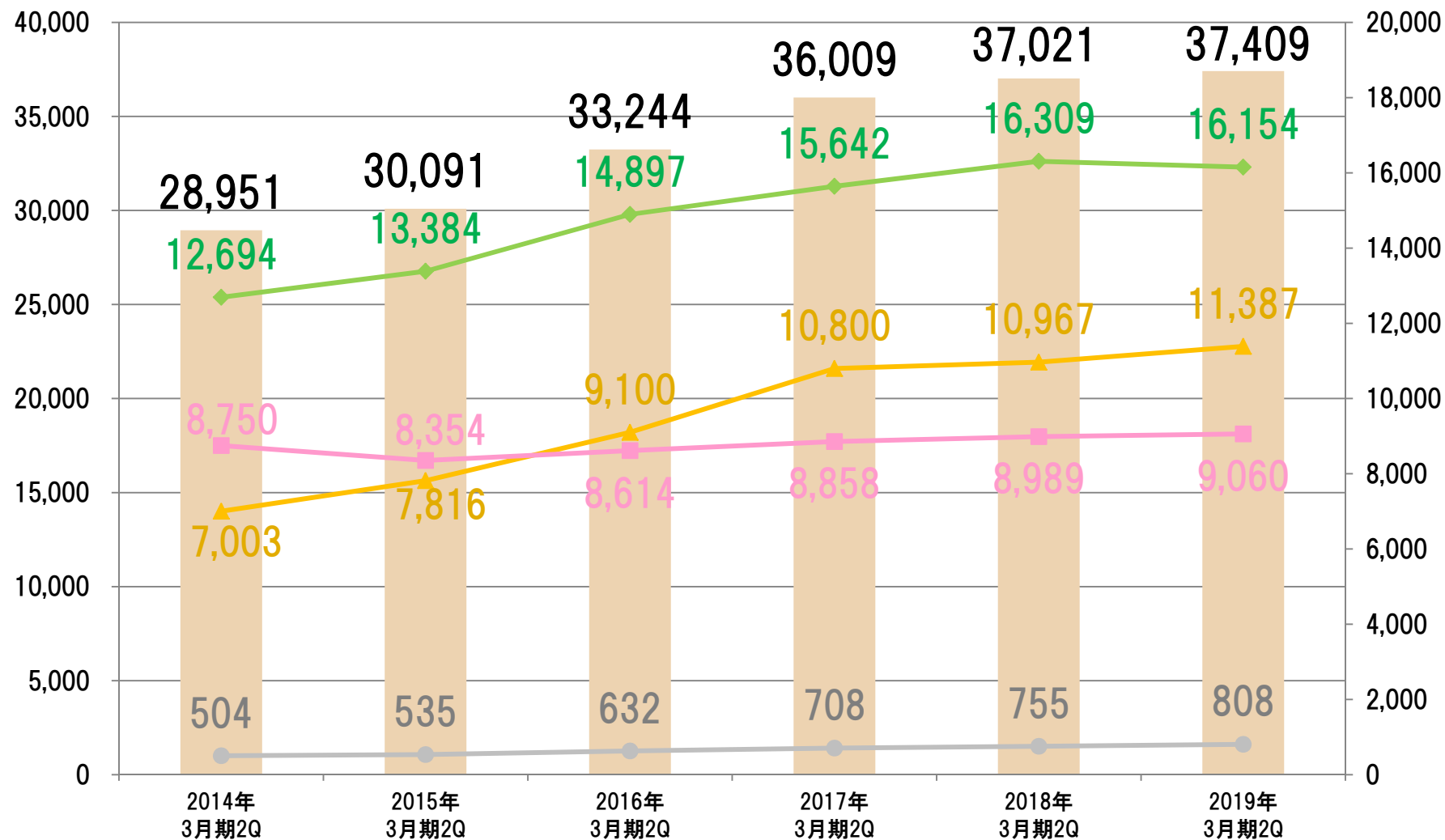
商材別売上高推移(連結)



②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況

連結売上高
単位:百万円

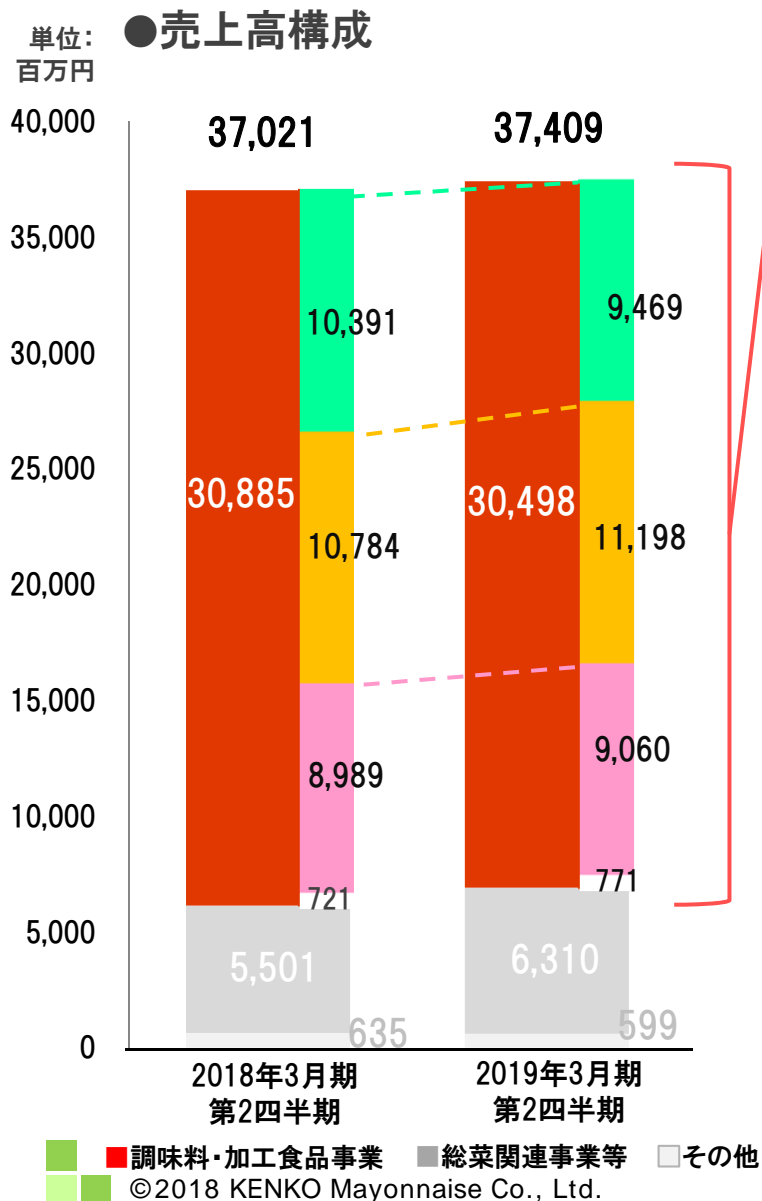
商材別売上高
単位:百万円



■ 連結売上高
 ◆ サラダ類
 ▲ タマゴ類
 ■ マヨネーズ・ドレッシング類
 ● その他

事業別売上高概況(連結)① <調味料・加工食品事業>

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



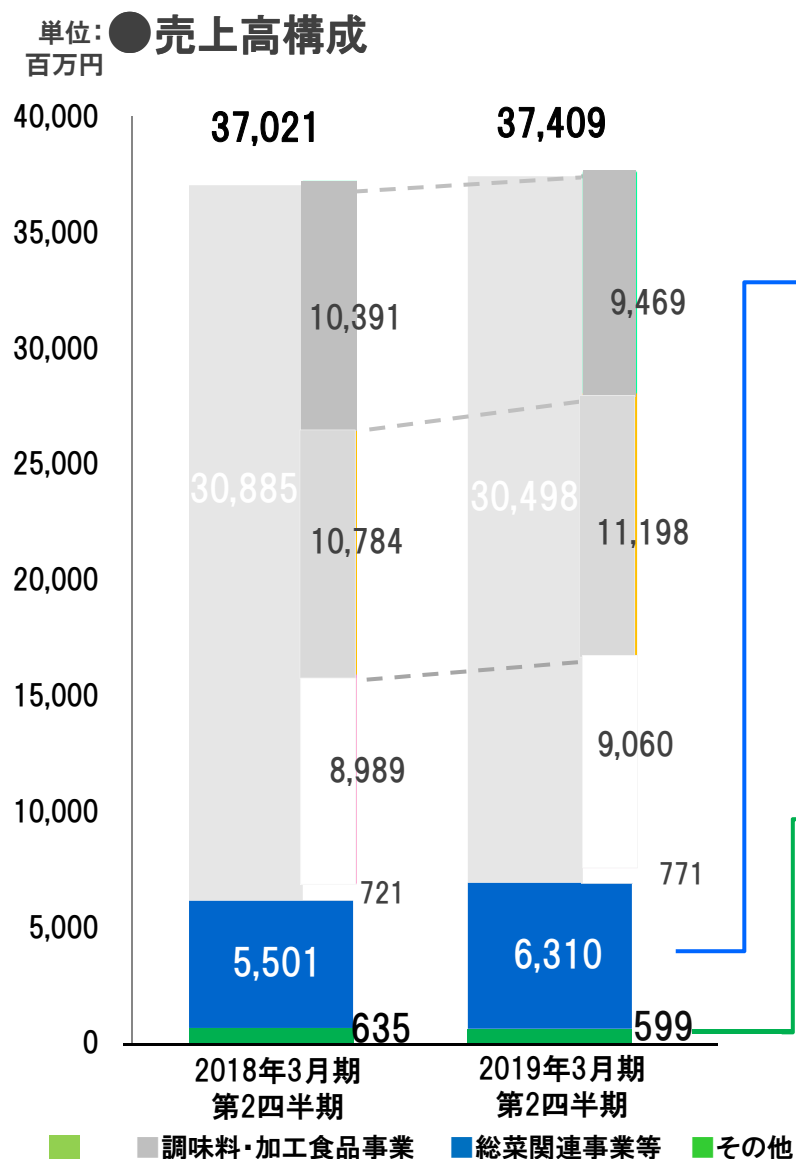
■調味料・加工食品事業 (売上高△1.3%)

<サラダ・総菜類、タマゴ加工品、マヨネーズ・ドレッシング類>

- 販売重量：前期比減少 (△1.5%)
 - 販売単価：前期比減少 (△0.1円/kg)
- **サラダ・総菜類**(売上高 △8.9% 販売重量 △7.8%)
- ・主力の1kg形態、小型形態のポテトサラダが減少
 - ・外食チェーンをはじめとしたメニュー変更等によりパンプキンサラダや明太子、コーン等を使用した商品が減少
- **タマゴ加工品**(売上高+3.8% 販売重量+3.6%)
- ・麺用の錦糸卵、オムライス用のスクランブルエッグがコンビニエンスストアを中心に増加
 - ・茹で卵は、外食を中心に幅広く使用され増加
- **マヨネーズ・ドレッシング類**(売上高+0.8% 販売重量△0.3%)
- ・ファストフード向けのソース等が伸長
 - ・海外向けのドレッシングが増加
 - ・10kgや1kg形態のマヨネーズは減少

事業別売上高概況(連結)②<総菜関連事業等・その他>

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



©2018 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.

■ 総菜関連事業等 (売上高+14.7%)

<フレッシュ総菜(日配サラダ、総菜)、グループ内生産受託>

- ・食品スーパー向けにシーフード(イカ、エビ、カニ、明太子他)を使用した商品が好調に推移
- ・夏場商品も売上高増加に寄与

■ その他 (売上高 △5.6%)

<ショップ事業(Salad Cafe)および海外事業※>

※ 海外事業は、持分法適用会社のため売上高には含まれません

- ・関東地区2店舗(いもたまや 伊勢丹新宿店、WaSaRa そごう横浜店)が閉店
- ・関東はグリーンサラダ、コールスローなど葉物系サラダが、関西はフルーツサラダ、ポテトサラダ、ごぼうサラダ等のロングセラー定番商品が根強い人気

事業別売上高・セグメント利益(連結)



②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況

単位:百万円

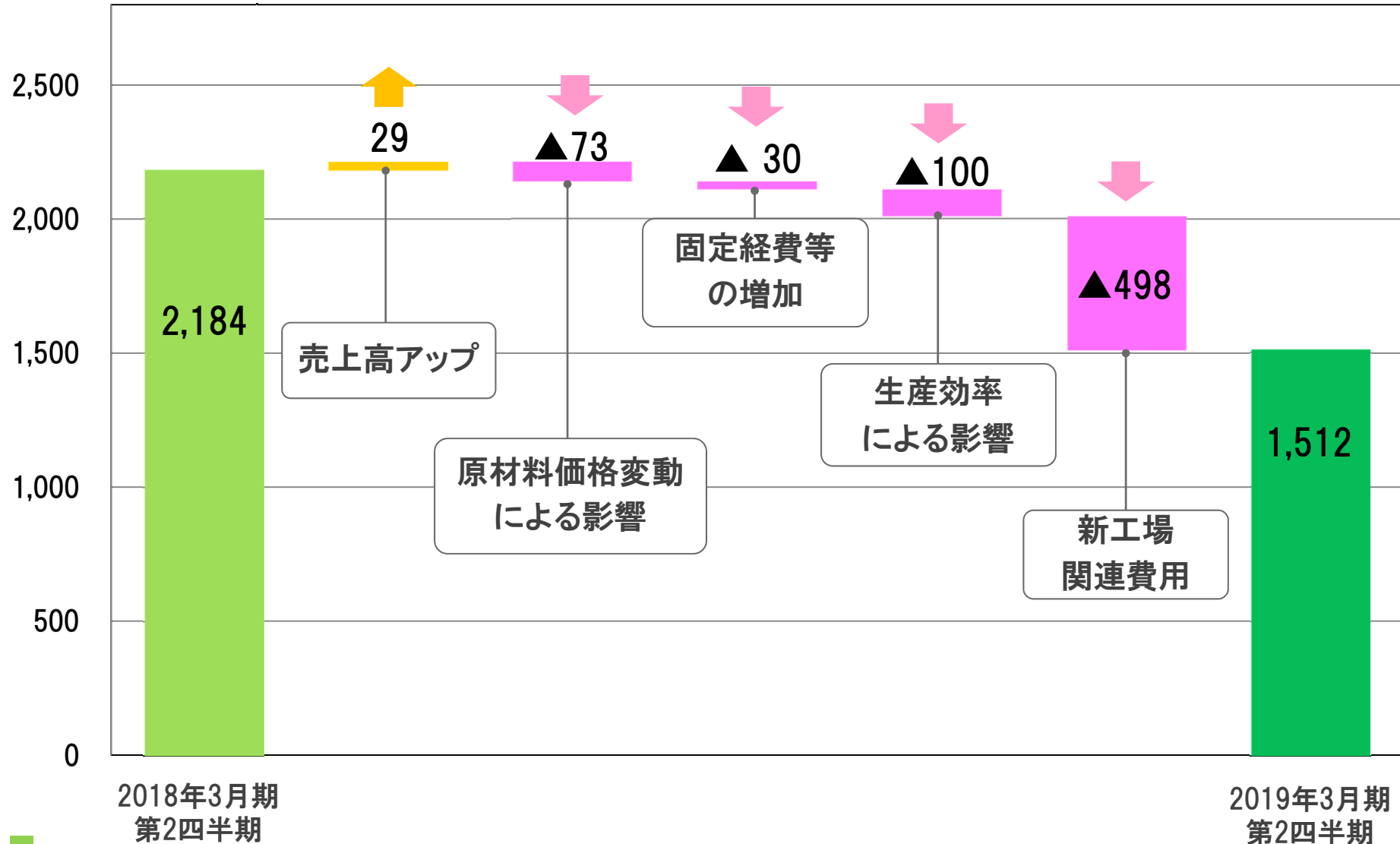
	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	前期比	
			増減	%
売上高	37,021	37,409	387	1.0%
調味料・加工食品事業	30,885	30,498	△386	△1.3%
総菜関連事業等	5,501	6,310	809	14.7%
その他	635	599	△35	△5.6%
セグメント利益	2,184	1,512	△671	△30.8%
調味料・加工食品事業	1,785	1,680	△104	△5.9%
総菜関連事業等	378	△193	△571	-
その他	△19	△0	19	-
調整額	40	24	△15	-

経常利益増減要因（連結）

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



単位：百万円



貸借対照表の概要（連結）

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況

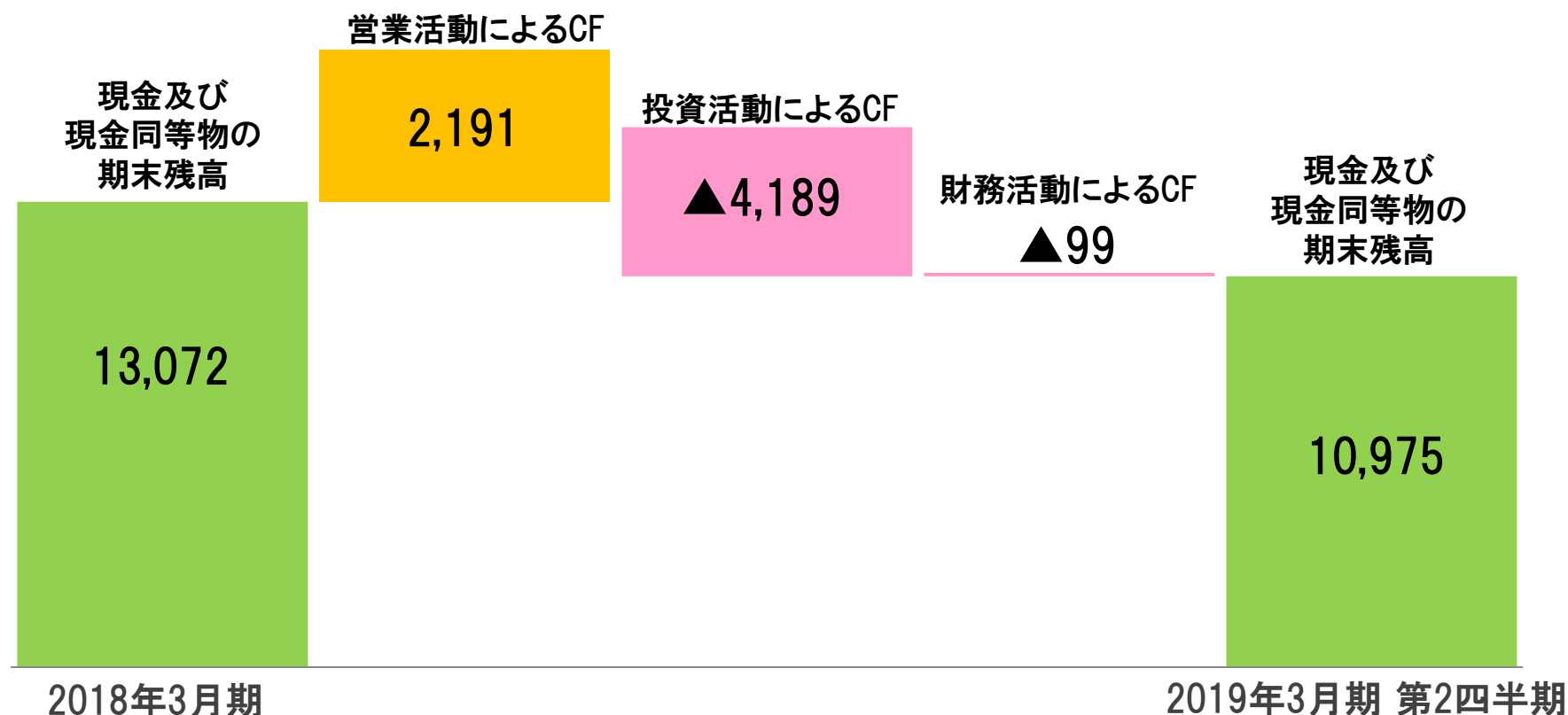


* 長期未払金を含む		単位:百万円		2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	増 減	前年度末比
資 産	流動資産			30,121	28,943	△1,178	△3.9%
	固定資産			34,716	36,784	2,068	6.0%
資産合計				64,837	65,727	889	1.4%
負 債	うち有利子負債残高 *			13,789	14,213	423	3.1%
				33,853	33,982	128	0.4%
純資産				30,984	31,745	761	2.5%
負債・純資産合計				64,837	65,727	889	1.4%
1株当たり純資産				1,880円61銭	1,926円83銭	46円22銭	2.5%
自己資本比率				47.8%	48.3%	0.5%	-

- 生産拠点構想の推進に伴い、機械装置等で2,991百万円の固定資産を新規取得
- 自己資本比率は48.3%（期末が休日である影響を考慮した比率:49.9%）

キャッシュフローの概要（連結）

②. 2019年3月期 第2四半期 決算の概況



- 営業CF : 減益により前期から1,013百万円の減少
- 投資CF : 固定資産の取得等により前期から34百万円の支出増
- 財務CF : 調達と返済のバランスにより△99百万円(前期から1,710百万円の調達減)
⇒ その結果、現預金残高は前期末から2,097百万円減少
(前期以前に調達した増資資金等から設備代金支払に充当したことによる)

③. 2019年3月期 業績予想

常務執行役員 経営企画室 室長
京極 敦



食を取り巻く国内の市場環境

女性の社会進出

単身世帯の増加

少子高齢化

食に対する
価値観の多様化

インバウンド需要

人手不足

外国人労働者
の増加

中食市場の拡大

高付加価値・
グローバル対応商品

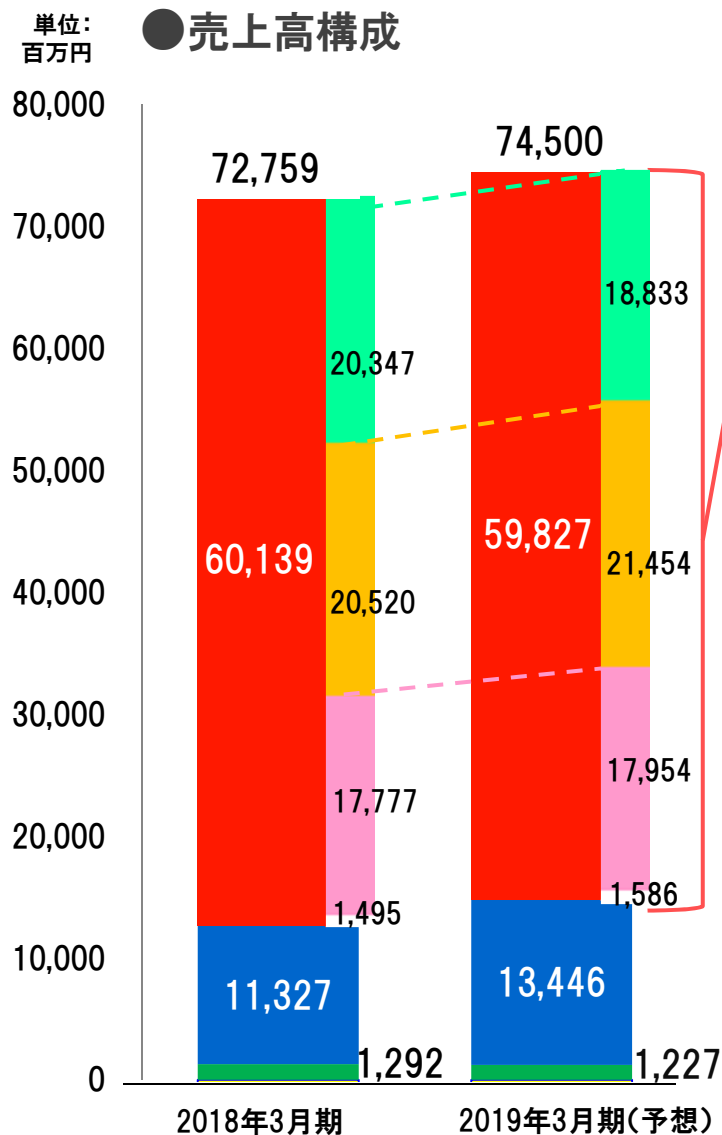
調理の簡便化

市場ニーズを意識した販売戦略、商品開発



事業別売上高予想（連結）

③. 2019年3月期 業績予想



■ 調味料・加工食品事業

＜サラダ・総菜類、タマゴ加工品、マヨネーズ・ドレッシング類＞

- 分野別・業態別の取り組みのさらなる強化
- ダイエットクック白老製素材系冷凍ポテト・チルドポテトの販売強化
- 商材別シリーズ商品の拡充



■ 総菜関連事業等

＜フレッシュ総菜(日配サラダ、総菜)、グループ内生産受託＞

- 関東ダイエットクック神奈川工場製商品及び各社フレッシュ総菜の販売拡大

■ その他

＜ショップ事業(Salad Cafe)および海外事業※＞

※ 海外事業は、持分法適用会社のため売上高には含まれません

- 「和サラダ」の更なる追及と情報発信の強化(店舗、Web等)

2019年3月期 業績予想（連結）



③. 2019年3月期 業績予想

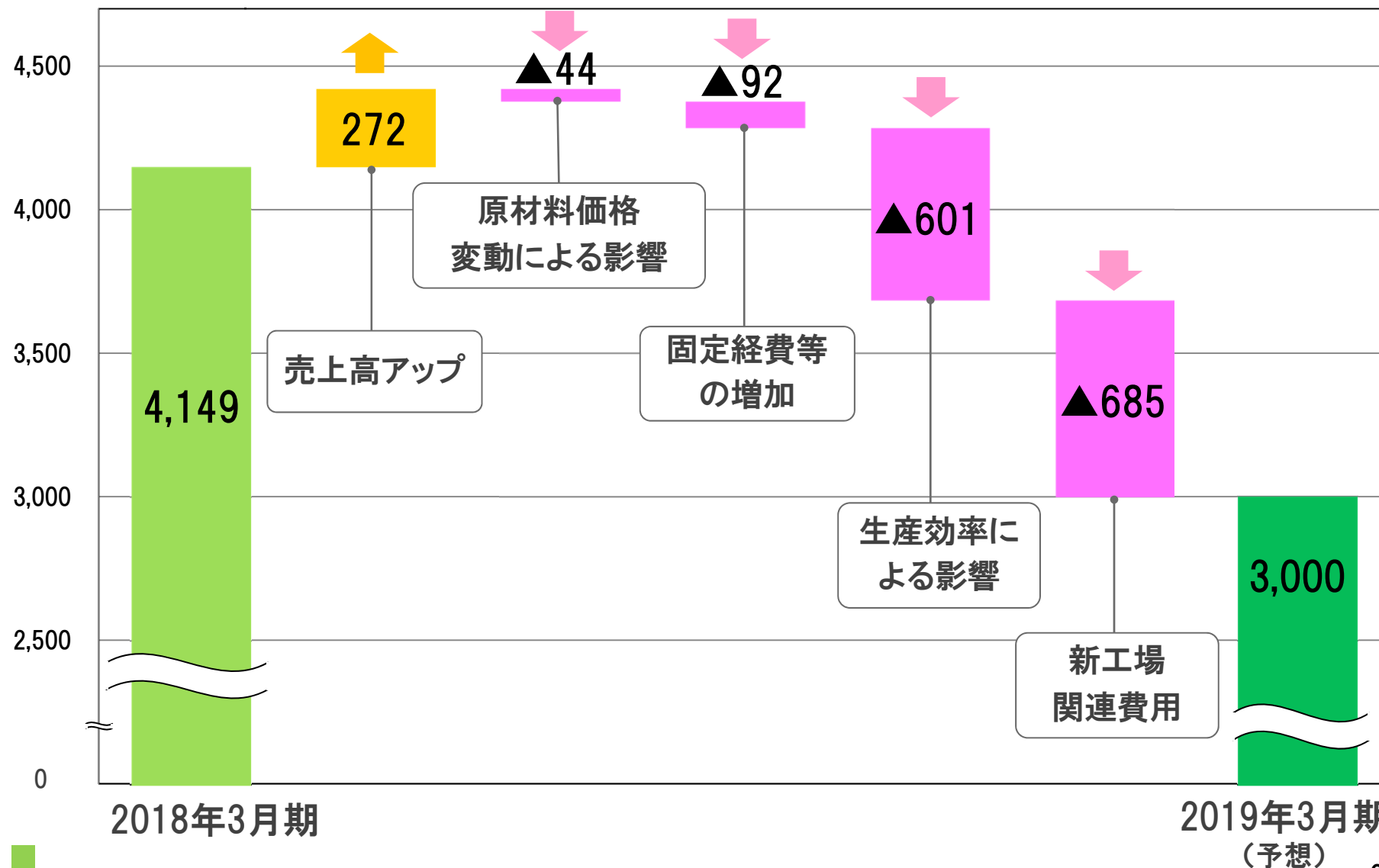
	2018年3月期 実績		2019年3月期 修正予想 (2018年11月9日発表)		2019年3月期 期初予想 (2018年5月15日発表)	
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比
売上高	72,759	2.7%	74,500	2.4%	77,000	5.8%
売上総利益	18,922	3.0%	-	-	-	-
%	26.0%					
販売管理費	14,748	2.5%	-	-	-	-
営業利益	4,173	4.7%	2,920	△30.0%	4,100	△1.8%
%	5.7%		3.9%		5.3%	
経常利益	4,149	3.3%	3,000	△27.7%	4,150	0.0%
%	5.7%		4.0%		5.4%	
税金等調整前当期純利益	4,205	4.6%	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,877	0.4%	2,270	△21.1%	2,880	0.1%
%	4.0%		3.0%		3.7%	
1株当たり当期純利益	174円65銭		137円78銭		174円80銭	

2019年3月期 経常利益増減予想（連結）



③. 2019年3月期 業績予想

単位：百万円

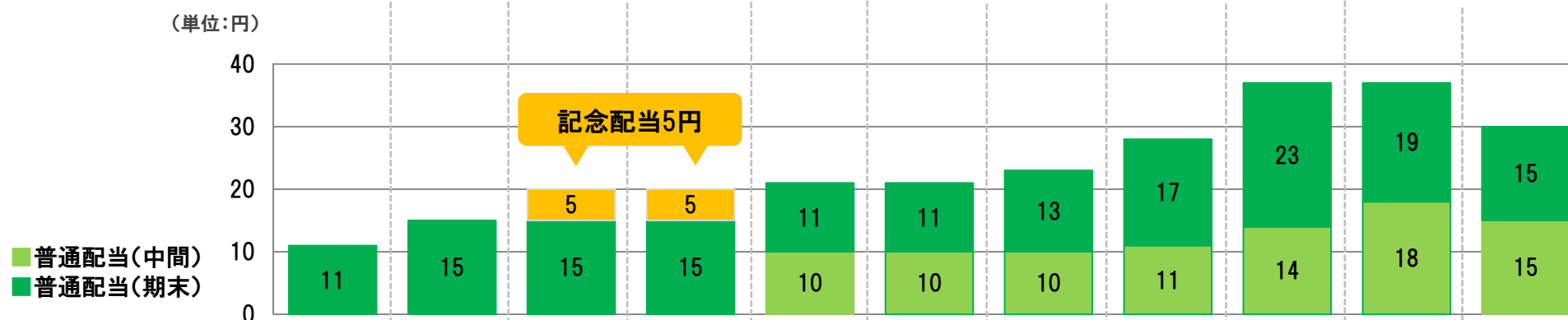


配当・株主還元



③. 2019年3月期 業績予想

	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期 (予想)
配当金(円/株)	11	15	20※3	20※4	21	21	23	28	37	37	30
配当性向(%)	47.1	13.4	19.3	27.6	21.2	23.6	19.9	19.1	19.0	21.2	21.8
配当利回り(%) (ご参考) ※1	3.0	2.5	3.6	3.2	2.3	2.3	1.4	1.2	1.3	1.1	-
純資産(株主資本) 配当率(%) (DOE) ※2	1.5	1.9	2.3	2.2	2.1	1.9	1.9	2.1	2.4	2.1	-



※1 配当利回り = 1株あたりの配当金(合計) / 各年3月末日時点株価(終値) × 100

※2 純資産(株主資本)配当率 = 1株あたり配当金(合計) / ((期首 + 期末 1株あたり連結純資産) ÷ 2) × 100

※3 東京証券取引所市場第二部上場記念配当 5円を含む

※4 東京証券取引所市場第一部上場記念配当 5円を含む